

Sapporo Symposium on Biological Rhythm in 2018 に参加して

佐々木 裕之[✉]

早稲田大学大学院 先進理工学研究科 薬理学研究室

2018年7月14日、15日にかけて、北海道札幌市の北海道大学にて開催された Sapporo Symposium on Biological Rhythm in 2018 に参加してきました。私にとって初めての札幌シンポジウムであり、数年ぶりの時間生物関連学会の参加でした。今回は、14日に Prize Winner's Lecture、Memorial Symposium、Memorial Lecture と3つのレクチャーが行われ、その後 Poster Presentation が行われました。この札幌シンポジウムでは、時間生物学の分野において著名な貢献をした研究者に Aschoff & Honma Prize for Biological Rhythm Research が送贈されるのですが、今回、University of California San Diego の Susan Golden 先生が受賞されました。また、長年の功績をたたえて名古屋大の近藤孝男先生に Aschoff & Honma Honorary Prize が贈られました。

その後、引き続き行われた Memorial Symposium、Memorial Lecture では、SCN のシングルセルやセル間のネットワーク、シアノバクテリア、ショウジョウバエ、ヒトの睡眠に関する大規模研究と幅広い様々なレクチャー講義が行われました。その中でもヒトの睡眠に関する研究は、私の所属する柴田重信研究室でも取り組んでいる分野であり、非常に興味深く、活動・睡眠データや光照射情報などを正規化・モデル化するといった話は、解析手法の一つとして応用できるのではといった考えが浮かびました。

引き続き行われた、Poster Presentation にて私はポスター発表を行いました。一時間弱という短い時間で、自身の「時間運動×腸内細菌（いつ運動すると腸内環境がどのように変わるのか）」という、今回のポスターの中では稀有(?)のような研究をどれだけの人に伝えられるのか。また、自身の英語力で上手く伝えることができるのか不安でした。しかし、始めてみると、多くの方に興味を持っていただき、多くのディスカッションをすることができました。また、心配だった英語力ですが、やはりスラスラと伝えることができなかつたものの、聞き手の皆様もゆっくりと熱心に聞

いてくださり、安心して落ち着いて伝えようと思いました。また、University of Zurich の Ben Collins 先生とのディスカッションの時に、私が「英語が下手でごめんなさい」と言うと、「大丈夫だよ、僕だって君ほど日本語は上手くないからね」とジョーク交じりに返してくださり、嬉しく感じるとともに、英語のディスカッションも臆さずに挑戦してみようと思いました。

シンポジウム1日目終了後は、北海道大学から京王プラザホテル札幌に移動し、Cerebration Party が行われました。豪華な料理に舌鼓を打ちながらも、先生方との会話を楽しむことができました。惜しむらくは、会話がほとんど受け身になってしまい、自分の名前を覚えていただくことや人脈作りに乏しくなってしまったかなと感じました。パーティの途中で、Ben Collins 先生から本間研一教授へ自家製のワインがプレゼントされ、本間研一教授はこの上ない笑顔で応えられていました。

札幌シンポジウム2日目は4つの Symposium が行われました。2日目でも様々な研究対象で、分子学的な話や生理学的な話など幅広いレクチャーが行われました。個人的に感じたことは、大規模データの解析や数値シミュレーションなど、ウェットな実験だけでなくドライな実験手法も多く見られたという印象でした。ランチ時のセミナーで行われた次世代シーケンサーを用いたメタボロミクス解析のレクチャーでは、男女で代謝産物の割合が異なるといった結果も興味深かったですが、その結果を示すための解析手法にも、とても関心を持ちました。私自身の研究にも大規模データの解析など、ドライな部分が必要であると感じていましたが、今回のシンポジウムを通じて改めてその必要性を実感しました。

シンポジウムの最後に Closing Address にて本間研一先生より、今後の札幌シンポジウムの展望等について述べられた後、過去、時間生物学の発展に大きく貢献された偉大な先生方の紹介 VTR を鑑賞し、熱気も冷めやらぬまま閉会となりました。

✉ hiroyuki-sasaki@asagi.waseda.jp

最後になりますが、普段より自分の研究を温かく見守って下さる柴田先生、私をサポートしてくれる柴田研の皆さん、そして今回このような参加記への投稿

機会をいただきました日本時間生物学会の関係者の方々にもお礼申し上げます。



札幌シンポジウムに参加されたMichael Rosbash先生との写真。一番右が筆者。



シンポジウム前日に本間研一先生、上田泰己先生らとバーに連れて行っていただきました。